

子どもとおとな、何が違う？

ねらい ▶▶

- 子どもとおとなの社会的な力関係について考える。
- おとなが行使しがちな「力」とはどのようなものか、それがなぜ子どもへの「権利侵害」や「暴力」につながっていくのかを考える。
- 「体罰」など、おとなの力の不適切な行使が「虐待」「暴力」であることに自覚的になり、子どもの「権利」を確認する場となるよう提起する。

キーワード

子どもとおとなの力関係、子どもの持つ力、子どもの権利条約

準備物

- シート①「自己紹介カード」グループ数
- シート②「子どもならOK?おとなならOK?」1人1枚
- ワークシート「子どもの権利条約」1人1枚
- 資料「児童の権利に関する条約」1人1枚
- 付せん3色 各色1人10枚ずつ程度
- もぞう紙 グループ数
- マーカー 1人1本
- ホワイトボードと専用マーカー
- マグネット 数個

プログラムの流れ

- | | | |
|-----|----------------------|---|
| 5分 | 1. 趣旨とルールの説明 | ●ねらいの説明など。 |
| 20分 | 2. わたしが子どもだったとき | ●自己紹介と導入。 |
| 10分 | 3. 子どもとおとな、何が違う？ | ●子どもとおとなのとらえ方に固定観念があることに気づく。 |
| 25分 | 4. 子どもならOK? おとなならOK? | ●同じような事象でも、子どもとおとなではなぜ起こったことへの印象が違うのか考えてみる。 |
| 15分 | 5. 子どもの権利条約を知る | ●私たちの周りにあることが子どもの権利条約に関係があることを知る。 |
| 15分 | 6. 子どもの権利条約を知っていたら | ●まとめ。自分の子ども時代から考えることで、自分にも権利があることに気づく。 |

時間

詳細な手順

ポイント

スタート

1 趣旨とルールの説明

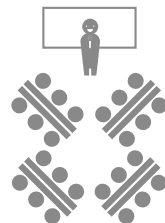
5分



今日は、「子ども」について、みなさんと一緒に考えたいと思います。ワークショップ形式で、参加者のみなさん同士がお互いにやりとりする中で、いっしょに考えを深めていきましょう。誰もがかつては子どもでしたが、おとなと呼ばれるようになって、そのころ感じていた不安や理不尽な思いを忘れてしまいがちです。子どもとおとなで社会的な力が圧倒的に違うという事実、その力をおとなが行使してしまうとき、それが子どもへの権利侵害や暴力につながっていくのはなぜなのか、どうすれば私た

会場の設営

- 会場は最初からグループ別に机とイスを並べておく。
[机とイスの配置例]



- 来た人から順にグループに分かれて座ってもらう。1グループは、4～6人ぐらい。
- グループ分けをする際、親しい人同士のグループにならないように声かけをする。

ちはそのことに自覚的になれるのか、子どもの権利をどうすれば保障できるのか、みなさんと一緒に考えていきましょう。

ワークを進めるに当たって、4つのルールがあります。このルールはみんなで守ってください。

●「協力」「尊重」「守秘」「時間」と板書する。



「協力」は、お互いに協力しましょうということ。「尊重」は、どの人のときも、それぞれの意見や考えを尊重しましょうということ。「守秘」は、ここで話された個人の経験や考えは、ここだけの話にして外へ持ち出さない、ということ。「時間」は、みんな平等に、1人がたくさん話して時間をいっぱい使わないように、できるだけみんなが話せるようにしましょう。

5分
経過

2 わたしが子どもだったとき(グループで自己紹介)

20分

説明3分、グループで自己紹介7分、全体共有10分

自己紹介をする



グループごとに、このカードを引いてもらいます。カードには「子どもの頃に好きだった○○」と書かれています。そのテーマについて、自分のことを紹介してください。時期は、いつでもいいです。小学生の頃、もっと小さな頃、ご自分が話しやすい時期でけっこうです。

●シート①のカードを切り離し、グループごとに1枚ずつ引いてもらう。

●ここで、ファシリテーター自身が「例えばわたしの場合は……」と例をあげる。



1人の持ち時間は1分です。全員が同じように話せるように、時間は守りましょう。1分になったら「交代」と言います。グループ全員の自己紹介が終わったら、どんな話が出たのかを、どなたかお1人に発表していただきます。

●1分になったら「交代です」と声をかける。

15分
経過

全体で共有



自己紹介は、いかがでしたか。各グループでどんな話が出たのか、発表していただきます。グループの中で、自己紹介が1番最後になった方が発表してください。1グループ1~2分です。

●各グループから1人に発表してもらう。



みなさん、かつてご自分が子どもだった頃のことを思い出されましたか。子どもだった頃の気持ちを、ちょっと持ちながら次のワークに進みましょう。

●グループごとに違う内容になるようにする。

●グループが6つ以上の場合、同じカードが2枚あってもよいし、別の内容のカードを作るのもよい。

●まず、例としてファシリテーターが自分の話をする。例えば「わたしが子どもの頃に好きだった遊びは、1人劇ごっこです。マンガを台本にして、1人で劇をしていました。お気に入りの役は『若草物語』のジョーでした。」

●グループ内の発表者は、ファシリテーターが指名する。自己紹介では、時間が押して最後に発言した人の時間が少なくなった可能性があるため、順番を作るという意味も含め最後の発言者にする。


3 子どもとおとな、何が違う？

10分


各自が付せんに書く作業5分、全体共有5分

- 各グループに、3色の付せん、もぞう紙、マーカーを配付する。


付せんに書き出す

 3色の付せんを配ります。それぞれに、これから前に板書する○○○○のところに何が入るかを考えて、思いつく限り書いてみましょう。

- ファシリテーターがABCごとの付せんの色を指定し、右の板書例のようにもぞう紙の記入例をホワイトボードに書く。

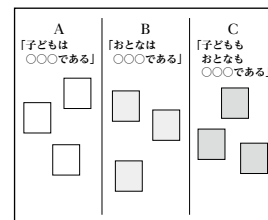
 もぞう紙を3つに区切り、色ごとに付せんを並べて貼ってみてください。思いつくままに、どんどん貼っていきましょう。作業時間は5分です。5分たったら、何人かに発表していただきます。

全体で共有

 たくさん出ましたか？ どなたかに感想を発表していただきたいと思います。他の人が貼ったものと、ご自分が書かれたものとを比べてみて、何か感じるものがありますか。作業をしながら、思うことはありましたか。どんなことでもけっこうです。

- 数人から発表してもらう。

- 付せんなどはアクティビティの最初から配付する。
- <ホワイトボードの板書例>



A「子どもは○○○である」
B「おとなは○○○である」
C「子どももおとなも○○○である」


- 時間の経過を見て、発表者はファシリテーターがランダムに指名する。

4 子どもならOK? おとなならOK?


25分

シート②を読んで話し合う15分、全体共有10分

子どもとおとなを対比して考える

 まず、グループの中から、進行係、発表係を先に決めてください。じゃんけんでも何でもけっこうです。

- 10秒ほど待つ。

 役割が決まりましたか。それでは、シートを配ります。ここには、子どもの体験とおとなの体験が並べて書かれています。それを読んでどう思ったかをグループ内で話し合ってください。話し合った内容は、後で発表していただきます。1つのグループで1つか2つの項目について話し合ってください。特に子どもとおとなを対比して、このようなことが許されるかどうか、子どもならOKでおとなはダメなら、それはなぜなのか、そういったことを主に話し合ってください。15分とりますので、たっぷり話し合ってください。

- 話し合いの時間をとる。
- 5分前、1分前になったら声をかける。

- 進行係、発表係を決めることに時間をとられないように配慮する。なかなか決められないグループには、じゃんけんでもいいですよ、と声をかける。

- 各グループにファシリテーターが①～⑤をわりふってもよい。

50分
経過

全体で共有



時間になりました。どのような意見が出たでしょうか。みなさんで共有していきましょう。それでは、グループごとに発表していただきます。最初のグループからお願いします。

- グループごとに発表してもらおう。1グループ1～2分、全体で10分

60分
経過

5 子どもの権利条約を知る

15分

説明5分、ワークシートを読んで書き込む作業10分

- 「子どもの権利条約」のワークシートを配付する。

子どもの権利条約を知る



「児童の権利に関する条約」、通称「子どもの権利条約」をご存知ですか？

- 子どもの権利条約の説明をする。



今お配りしたワークシートは、子どもの権利条約をわかりやすい言葉で要約したものです。先ほどお配りしたシート②のグループで話し合った例文が、この権利条約の何条に関係しているかを考えてみてください。

- ファシリテーターから『子どもの権利条約』の説明をする。資料を見て、どのような経緯で権利条約ができたのかなど、簡単に説明する。

- 1人で考えるのが難しそうの方がいたら、グループで話し合う時間を設けるなど適切に声をかける。

75分
経過

6 子どもの権利条約を知っていたら

15分

説明2分、2人で話し合い6分、全体共有7分

私の場合を考える



子どもの権利条約に日本が批准したのは1994年(平成6年)です。みなさんが子どもの頃、権利条約の内容を知っていたら、子どもだった自分に、どのような権利を伝えたいですか。子どもだった自分に、こんな権利があるんだよ、と伝えたい権利を考えてみてください。ご自分の子ども時代のエピソードを思い出しながら、知りたかった権利を子どもの権利条約から探してみてください。おとなりの人と2人1組になって、話し合ってください。

- 1対1でじっくり聴き合う。

全体で共有



では、話し合いで出てきた内容を、何人かの人に発表していただきたいと思います。

まとめ



みなさんお疲れ様でした。子どもにとっても大切な人権について、みなさんと
いっしょに考えることができました。今日のワークショップでの学びを忘れず、
子どもとともに生きるということを今一度しっかりと確認して、今日はこれで終了といた
します。